

り

り 利(名)

古音にして單子音の一つ。

〔一〕利益。●利得。●得分。〔二〕便利。●好都合。〔三〕勝利。●好結果。〔四〕利息。●利子。

り 里(名)

〔一〕中古の制五十家を一里といふ。〔二〕また三十六歩を一里といふ。〔三〕道路の距離を測る詞。六町、四十町、四十八町、六十町、七十二町等古來種々の沿革あり。後五十町とし現今は三十六町を以て一里と定む。

り 理(名)

ことわり。●筋道。●道理。●條理。

り 痢(名)

病の名。下痢。●痢病。

り 犁(名)

農具の名。からすき。

り (助動) 變)

半過去をあらはす詞。たりに同じ意にして稍や輕し。○伊勢「五月の晦日に雪いと白う降り」竹取「薬もくはずやがて起きも上らで病み伏せり」

り りん

吏員(名) 吏務を執る人。●役人。●官吏。

り りう

りゅうの部を見よ。

り りん

理論(名) 〔一〕物の條理を論ずる事。〔二〕實驗

に依らずして議論にのみ理窟を云ふ事。

り りはい

離杯(名) 別れの杯。●別杯。●別宴。

り りはつ

利發(名) 利に發明なる事。●伶俐。●敏捷。

り りはつ

理髮(名) 〔一〕古代元服して髮を結ぶ事。〔二〕

髮を刈る事。△(動)―理髮す。

り りぼん

(名) 女子洋風裝飾品の名。幅の狭ききれにて

髮、帽子、洋服などに附くるもの。

り りほう

吏部(名) りぶに同じ。式部省の異名。

り りべつ

離別(名) 〔一〕人と別る事。●送別。●留別。

り りど

(二) 離縁。●離婚。△(動)―離別す。

り りたう

吏道(名) 朝鮮古代文字の一體。諺文の最も古き

もの。新羅三十一世神文王が漢字の偏傍を

取りて作れるものと云ひ傳ふ。

り りとく

利刀(名) 銳利なる刀。●わざもの。

り りち

利得(名) 利益。●得分。●まうけ。

り りちぎ

律(名) 音樂調子の名。りつに同じ。○源氏「り

ちのしらべは女の物やはらかにかきならし

てし

り りちぎ

律儀(名) 正直一方なる事。●實直。△(形) 律

儀なる。(副)―律儀に。

りりし (形。形状言シク法) 勢の鋭き有様。

りかい 理解(名) 其理を解釋する事。●了解。△(動) 理解す。

りがい 利害(名) 利益と弊害と。●損得。

りかん 離間(名) 親しき間を離れさせする事。△(動) 離間す。

りかく 理學(名) 〔一〕形而下學の總稱。●科學。●萬有學。●サイエンス。〔二〕物理學の略。

りがく 利學(名) 英語ユーチリタリアニズムの譯。◎學科の名。最大幸福を以て原理とするの説を主とするもの。

り 呂(名) 〔一〕音樂調子の名。律と相對す。〔二〕音樂上の低音。

りりつ 呂律(名) 音樂の調子。呂と律と。

りよかん 旅雁(名) 雁は季節によりて往復するものなれば之を旅中の身に見なしていふ詞。◎渡る雁。●歸る雁。

りやく 旅客(名) 旅人。

りよだん 旅團(名) 現今の兵制。師團の下、聯隊の上にある一軍隊。

りよぼう 旅装(名) 旅姿。●旅支度。△(動) 旅装す。

りよう 利用(名) 便利または利益となる様に使用する事。△(動) 利用す。

りよう 龍(名) 想像動物の名。全體蛇に似て角あり手あり。風雲に乗じて空中に飛行するもの。●りう。●たつ。……主上の御身を喩へていふ事あり。龍顏、龍駕の類。

りよう 綾(名) あやに同じ。織物の名。○枕「りようの務」

りやりよう 靈(名) 崇り。●物の怪。●生靈。●死靈。

りやりよう 令(名) 〔一〕古代行政司法すべての法則。即ち今の法律と條例とにあたる。……天智天皇の御宇に出来たるを近江令といひ。文武天皇の御宇に出来たるを大寶令といふ。〔二〕大寶令の略。○「令に曰く」令を讀む

りやりよう 領(名) 〔一〕領分。●領地。○「會津領」「天領」郡司の官名。●大領。●小領。

りやりよう 領(名) 領あるものを數ふる詞。○「時服一領」

りやりよう 量(名) 〔一〕秤に掛けたる重み。●かけめ。●目方。〔二〕秤に掛けたる多寡。●分量。●多少。〔三〕心腹。●心中。●はらあひ。

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りやりよう

りよう 糧(名) 兵糧。  
 りよう 兩(名) 「一」古代の秤り目の名。一銖の二十  
 四倍。一斤の十六分の一。「二」薬種の秤り  
 目にては四匁をいふ。「三」徳川時代金銀貨  
 の單位。即ち一分の四倍。銀一銖の十六倍。

りよう 輜(名) 車を數ふる詞。○「馬車一輛」  
 りよう 獵(名) かり。……鳥獸または魚類の。  
 りよう 察(名) 「一」省の所属の役所。頭、助、允、属  
 の官吏ありて其事務を執る。……左馬寮、右  
 馬寮、大學寮、支蕃寮の類。「二」學生の寄宿  
 所。「三」別荘。

りよう 料(名) 「一」或目的に用ふべき其品物。●材料。  
 「二」代金。

りよう 兩(數) 「一」「二」。●二つ。「二」双。●雙方。

りよう 夷(名) 名醫。●大醫。  
 りよう 人事の次第に衰ふる事。△(動)―陵

りよう 稜威(名) 銳き威光。―いつに同じ。  
 りよう 良馬(名) 良き馬。●名馬。●龍馬。

りよう 獵場(名) 魚を捕る場所。  
 りよう 兩人(名) 二人に同じ。●兩名。

りよう 料人(名) 他人の妻を呼ぶ詞。●御料人。  
 ◎家政を取り料らふ故の名。

りよう 良母(名) 善良なる母。●賢母。

りよう 兩方(名) 彼方と此方と。●雙方。  
 りよう 兩便(名) 「一」兩方の便利。「二」大便と  
 小便。

りよう 兩度(名) 二度に同じ。  
 りよう 兩刀(名) 「一」近世武士の帯びたる大  
 小二本の刀。「二」大小刀を兩手に持ちて闘  
 ふ一種の劔法。

りよう 稱襦(名) 古代裝束の名。袖なくして  
 兩端にギザギザあり。胸と脊とに掛くるも  
 の。其用例は下の如し。「一」武官の禮服。  
 「二」競馬人の服裝。「三」舞樂の裝束……還  
 城樂の處を見よ。之を着用したる圖あり。

りよう 糧道(名) 兵糧運搬の道。  
 りよう 兩刀遣(名) 「一」兩刀にて闘ふ  
 術を學びたる人。「二」轉じて反對の所作業  
 務を兼用せる人をいふ。○「下戸と上戸の兩  
 刀遣」

りよう 龍頭鶴首(名) りようごうげきしゆに

りようごうげきしゆ

同じ。(濱松)

りょうぶげきしゅ

龍頭鷓首(名) 船の一種。軸先に龍

頭と鷓首(鷓は水鳥の名)を装ひ着けたる屋形船。中古貴族の乗り遊ぶための舟。

りょうぶげきす

龍頭鷓首(名) りょうぶげきしゅに

同じ。(源氏)

りやうりょうふ

兩得(名) 「一」雙方利益および便利なる事。○「彼我兩得」「二」同時に二つの利益を得る事。○「一舉兩得」

りやうりょうち

領地(名) 領分の土地。●封地。●知行所。

りやうりょうち

良知(名) 天賦の知。●辨別心。●良心。

りやうち

陵遲(名) 漸々と衰微する事。●陵夷。△(動)陵遲す。

れりょうち

療治(名) 病を癒す事。(動)―療治す。

れりょうち

料理(名) 「一」食物を調ふる事。「二」料理したる食品。「三」すべて事物を調理し料らふ事。△(動)―料理す。

れりょうち

料理人(名) 料理をする人。

れりょうち

料理茶屋(名) 料理をして人に食はする家。●料理屋。●飲食店。

れりょうち

寥々(副) ものさびし。(又)―寥々々。

(形)―寥々たる。

れりょうち

料理屋(名) 料理茶屋に同じ。

りやうりょうち

(形。形状言シク活) 一説には良々にして良きなり。似合しきなり。一説には

勞々じの訛にて巧者らしきなり。○樗小舎人ば。云々。かしこまりて物なごいひたるぞりやうり、じき」。

れりょうち

(自動四段) 料理の語尾を活用させたる詞。◎料理をする。

りやうわちう

陵王(名) 羅陵王の略。●雅樂の曲名。

りやうわか

良家(名) 良き家柄。●名家。

りやうが

龍駕(名) 天皇の御乗物。●鳳駕。

れりょうかい

了解(名) 合點。●會得。△(動)―了解す。

りやうかん

龍顔(名) 天皇の御顔。●玉顔。

りやうかく

兩角(名) 兜の前立の一種。

りやうがけ

兩掛(名) 棒の兩端に着けて擔ぐ旅行用の箱。

りやうがへ

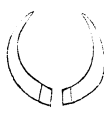
兩替(名) 貨幣又は紙幣と錢と取替ふる事。

りやうがへ

兩替屋(名) 兩替を業とする家。

りやうがへ

兩替屋(名) 兩替を業とする家。



りやりょうやう 兩様(名) 二つの有様。●二様。

りやりょうたん 兩端(名) 兩方の端。

りやりょうだんさくはく 兩段再拜(名) 神拜の一法。敬禮の最も厚きもの。再拜を二度する事。故に兩段さば云ふ。

りようだて 龍立(名) 「一」龍の形に作れる兜の前立。●たつがしら。「二」能樂にて龍神などの頭に戴く龍の形したるもの。

れりょうそく 料足(名) 金銭。●おあし。●代料。

りやりょうない 領内(名) 領分内。●領地内。

りやりょうのう 良能(名) 天賦の能。●學ばずして能くする事。●天才。

りやりょうぐ 靈供(名) 佛の供物。

りようくわ 菱花(名) 「一」菱の花。「二」鏡の異名。◎昔の鏡は多く八菱形なりし故。略して音讀せらるなり。

りやりょうやく 良藥(名) 良き藥劑。●妙藥。●靈藥。

りようちぢす 病の名。りようちぢすに同じ。

りやりょうけ 領家(名) 中古莊園を司りたる役人。

りやりょうけ 靈氣(名) 物の怪。●祟り。○空穗「りやうけなきいひてし」

りやりょうけい 兩敬(名) 武家の交際に云ふ詞。●音信。訪問などに双方同等なる敬禮を用ふる事。

れりょうけん 了簡(料簡)(名) 「一」かんがへ。●心。「二」宥免。

りやりょうげのぐん 令外官(名) 大寶令に載せられざる官職。

りやりょうぶ 令法(料蒲)(名) 木の名。山茶花の一種。其若葉は飯に交せて食ふ。之を令法飯といふ。◎凶年に令を下して此葉を食はしめしよりの名といふ説あり。

りやりょうぶ 兩部(名) 「一」兩方の部分。「二」神道の一派。神佛二教を混和して説くもの。

りやりょうぶん 領分(名) 領したる土地。●領地。

りやりょうふう 涼風(名) 涼しき風。

りやりょうせん 良縁(名) 良き縁組。●適當なる縁邊。

りやりょうて 兩手(名) 左右の手。●二様の方法。

りようてい 龍蹄(名) 天皇乘御の馬。

りやりょうてん 雨天(名) 日傘の一種。晴天にも雨天にも用ふるを得るもの。

りやうてんびん 兩天秤(名) 物事を處するに天秤の如く兩方に掛け置く事。△(副)「兩天秤に」。

りヤリヨウあん

諒闇(名) 天皇の御喪中。……十三ヶ月なり。○榮花「涼闇たちたれど」

りヤリヨウさつ

諒察(名) 推量。●推察。△(動)―諒察す。

りヤリヨウきく

兩極(名) 南極と北極と。●極目(名) 秤りの目方。●重量。●兩面(名) 表面と裏面と。

りヤリヨウめん

良民(名) 善良なる人民。●順民。

りリヨウし

獵師(名) かりうご。●漁夫。●料紙(名) 書く料の紙。●用紙。

れリヨウし

寮試(名) 昔し大學寮にて行はれたる試問。

りヤリヨウじ

領事(名) 現今の官制。外務省に属し外國の我居留地に在留して我人民の取締をなす役。

れリヨウじ

聊爾(名) 卒爾。●匆卒。●粗相。●失禮。○謡曲「先には聊爾を申して餘りに面目なく候程に」△(形)―聊爾なる。(副)―聊爾に。

りヤリヨウじ

令旨(名) 東宮、三宮、中宮、親王より下さるゝ命令書。

りヤリヨウじヤシユウ

領掌(名) 「一」受取る事。「二」許諾

りヤリヨウしん

兩親(名) 父と母と。●ふたおや。●良心(名) 邪正を辨別するの心。●真心。●本心。

りヤリヨウしん

良辰(名) 良き日。●吉日。●吉辰。●良人(名) 夫。

りヤリヨウじん

獵師町(名) 漁夫の住む里。●漁村。

れリヨウしまち

領主(名) 領地の主人。●地頭。●藩主。●龍舟(名) 龍頭の舟。……龍頭りようとう 龍首りようしゅ を見よ。

りヤリヨウシユウ

領袖(名) 頭立ちたる人。●首領。●領收(名) 受取る事。●收納。●受領。

りヤリヨウシユウ

△(動)―領掌す。●靈鷲山(名) 印度の山の名。釋迦の勤行して佛道を起したる所。

りヤリヨウじゆせん

りヤリヨウせい

兩性(名) 男性と女性と。●領聖(名) 希臘教にて聖餐を受くる事。

りヤリヨウせい

兩舌(名) 佛法上罪惡の一種。舌を二枚

に使ひて他の過を惡口する事。

りやりヨウゼン

領洗(名) 基督教に洗禮を受くる事。

れりヨリッゼン

獵船(名) 魚を捕る船。●釣舟。●網舟。

りやりヨウゼン

●漁舟。

兩全(名) 兩方共に全き事。○「忠孝兩全」△(形)―兩全なる。(副)―兩全に。

りやりヨウゼンみらま

靈山御山(名) 「一」靈鷲山に同じ。△(形)―兩全なる。(副)―兩全に。

じ。〔二〕古代今様の曲名。

りやりヨウゼン

領(他動サ變) 「一」土地を我物とする。●

占領する。〔二〕我物としたる土地を保有する。

りやりヨウゼン

領(他動サ變) 領すに同じ。(雅)

りやりヨウゼン

靈鷲山(名) りやりヨウゼンに同じ。

りよく

利慾(名) 慾心。●利益心。●利己心。

りよくいん

綠陰(名) 青葉の陰。●樹陰。

りよくばん

綠鑿(名) ろうばに同じ。

りよくりん

綠林(名) 盜賊の異名。◎昔し支那にて綠林

さいふ地に盜賊多かりし故に云ふ。

りよくわい

慮外(名) 「一」思慮の外。●意外。●存外。

「二」無禮。●失禮。△(形)―慮外なる。(副)―慮外に。

りよくりん

旅館(名) 旅館。●旅籠屋。

りよくがく

綠夢(名) 梅の一種。花夢の綠なるもの。

りよくごう

旅寓(名) 旅の住居。●寓居。

りよくえき

力役(名) 力の入る仕事。●力業。●荒仕事。

△(動)―方役す。

りよくじゅ

綠樹(名) 青葉の茂りたる木。

りよくせん

力戦(名) 力を盡して戦ふ事。●奮戦。△(動)―力戦す。

りよくけん

旅券(名) 旅中の通行手形。●旅行券。

りよくかう

旅行(名) 旅する事。△(動)―旅行す。

りよくてん

旅店(名) 宿屋。●旅籠屋。●旅館。

りよくじん

旅人(名) たびびと。

りよくく

旅宿(名) 宿屋。●旅籠屋。●旅館。●旅舎。

りよくせん

呂旌(名) 歌樂歌曲のめぐりの名。……めぐり

を見よ。

りよくひ

旅費(名) 旅中の入費。●路用。

りたつ

利達(名) 立身出世する事。●顯達。

りれき

履歴(名) 其人の經歷。

りさう

理想(名) 哲學上の詞。吾人が常に之を現實にせん

と務むる豫想的狀態。

りそく

利息。利足(名) 金錢の借貸に貸主へ支拂ふ金。

利子。●息。●利。

りつ

律(名)

〔一〕國家法律の一種。犯罪者の罰則。...

大寶律、謗謔律の類。〔二〕音樂の調子。呂

と對するもの。〔三〕佛教上の禁戒。〔四〕律

管の略。〔五〕漢詩の一體。通例八句より成

りて第三句と第四句と。および第五句と第

六句とに對句を用ふるもの。

なる。(副)―立派に。

りつぱ

立派(名)

壯麗。●偉麗。●壯嚴。△(形)―立派

なる。(副)―立派に。

りつぽふ

立法(名)

法律を制定する事。……行政、司法

に對していふ詞。

りつたう

立冬(名)

曆の詞。二十四氣の一にて冬の立ち

りつり

立刀(名)

漢字の傍の名。利、劍等の字の右に

りつり

律呂(名)

〔一〕音樂の調子。律と呂と。〔二〕す

りつ

りつりやリヨウきやくしき

律令格式(名)

律と令と格と

りつか

立夏(名)

曆の詞。二十四氣の一にて夏の立ち初

りつたいし

立太子(名)

正式によりて皇太子を立て給ふ

りつそう

律僧(名)

律宗の僧徒。

りつぐん

立花(名)

活花に同じ。

りつぐん

律管(名)

音樂の調子を合はする爲めの十二

りつぐん

立花供養(名)

種々の活花を供へて行

りつげんの

立憲の(形)

憲法を立て、あるところの。

りつげんこく

立憲國(名)

立憲政體の國。

りつげんせいたく

立憲政體(名)

憲法を立て、之に據り

りつぷく

立腹(名)

腹を立つる事。●懷怒。△(動)―立





りこう 立后(名) 正式によりて皇后を立て給ふ事。

りつあん 立案(名) 考案を立つる事。●趣向を廻らす事。△(動)―立案す。

りっし 律師(名) 古代僧侶の官名。僧正、僧都の次に位するもの。●りし。

りっし 律詩(名) 漢詩の一體。……律の「五」を見よ。

りっし 立志(名) 志を立つる事。

りっしよく 立食(名) 卓上の飲食物を來賓各自適宜に取りて飲食する一種の饗應法。

りっしん 立身(名) 身を立つる事。●榮達。●出世。△(動)―立身す。

りっしんべん 立心偏(名) 漢字の偏の名。情、快などの字の左にあるもの。◎心の字を立てたる形なりとの意。

りっしんわう 立親王(名) 正式によりて親王を立て給ふ事。(正統記)

りっしゅん 立春(名) 曆の詞。二十四氣の一にて春の立ち初むる時節。

りっしゅう 立秋(名) 曆の詞。二十四氣の一にて秋の立ち初むる時節。

りっしゅう 律宗(名) 佛教八宗旨の一つ。奈良の朝に唐

りっせん 律旋(名) 雅樂歌曲のめぐりの名。……めぐりを見よ。

りつするのち 立錐の地(句) 錐を立つる程の明き地。必ず打消の詞を下に呼び起して「立錐の地も無し」など云ふ。人の群集して少しも明き地なきの意。

りん 鈴(名) 「一」佛具の名。佛前にて鳴らす小形の打鉦。「二」又半鐘の小さき形にて物の合圖などに振り鳴らす鉦。

りん 隣(名) 狐火。●鬼火。●鬼火。●陰火。

りん 輪(名) 「一」車の輪。「二」一輪の車。「三」月の丸みをいふ。「四」一輪の明月。「五」花辯の全形。

りん 一輪の小さき花。「一」梅一輪々々つゝあつた「二」ウツギ

りん 綸(名) 糸。●釣の糸。

りん 吝(名) しわき事。●吝嗇。

りん 厘(名) 「一」秤の量目。分の十分の一。「二」物さしの量目。分の十分の一。「三」現行貨幣の位。壹圓の千分の一。

りん

りん

りんばん  
りんぼう

輪番(名) 順番。●かばりぐ。  
輪鋒(名) 「一」僧の加持祈禱の時持つ唐金の器具。長さ一尺餘にて八方に突き鋒先の出でたるもの。……もこほ印度の兵器なりさいふ。「二」輪鋒の形に似たざりたる紋の名。(圖)



りんだう

龍膽(名) 草の名。竹の葉に似て秋の頃桔梗に似たる瑠璃色の花咲くもの。●雅名はりうたん又りうだう。

りんぞく

輪讀(名) 讀書練習法の一つ。人々相會して順番に朗讀する事。

りんぢょ

隣女(名) 鄰家の娘。

りんり

倫理(名) 「一」人たるの道。●人道。●道德。「二」倫理學の略。

りんり

淋漓(副) 血、汗などのたら／＼垂る／＼有様。△(又)淋漓さ。(形)淋漓たる。

りんりがく

倫理學(名) 學科の名。哲學の一科にして倫理の眞理を研究するもの。

りんりん

凜々(副) 凜然に同じ。

りんりん

隣々(副) 車の音。(又)隣々さ。

りんりん

(感) 松虫の鳴く聲。△(副)りんりんくさ。○謡曲「誰松虫の音はりんくさして」

りんか

隣家(名) 隣の家。●近所の家。

りんか

林歌(名) 雅樂の曲名。

りんたい

輪臺(名) 雅樂の曲名。

りんれつ

凜烈(副) 寒さの身にしむ有様。

りんそん

隣村(名) 隣の村。

りんざう

輪藏(名) 一切經を入れ置く藏の一種。其形八角にて押せざる／＼廻る様になり居るもの。參拜者は全部の經を讀む代りに之を廻すを習さす。

りんま

輪廻(名) 因果應報の輪轉して止まざること。△(動)輪廻す。○謡曲「六道に輪廻して」

りんねる

(名) 英語リンネンの訛。亞麻の布。

りんう

霖雨(名) 長雨。

りんて

輪手(名) 雅樂の詞。輪説の手。(源氏)

りんくわ

燐火(名) 狐火。●鬼火。●不知火。しらぬひ

りんくわ

輪廓(名) 畫學上の詞。其物の周圍の線。

りんげつ

臨月(名) 胎兒の生まるべき正當の月。●産月。

りんげん

繪言(名) 天皇の御言葉。●勅語。

りんこ 林檎(名) 木の名。葉と幹とは梨に似て花は海

棠の如く實は味淡くして美なるもの。

りんご 臨期(名) 其時に臨む事。●死に臨む事。○中

院通茂卿集「りんごにはよしかはるごと慰

めに契らぬ月に見る影もなし」

りんか 臨幸(名) 行幸。●みゆき。

りんか 輪講(名) 讀書練習法の一つ。人々相會して

順番に講義する事。△(動)―輪講す。

りんこく 隣國(名) 隣の國。

りんこくたつ 輪鼓種脱(名) 雅樂の曲名。

りんてん 隣帖(名) 隣家にて掃つ帖。(謡曲)

りんざいしゅう 臨濟宗(名) 禪宗の一派。唐の臨濟禪師

に創まり我國には足利時代僧榮西の傳へた

るもの。

りんぎ 悋氣(名) 夫婦間の嫉妬。●やきもち。

りんぎたうへん 臨機應變(句) 機に臨み變に應ずる意。

其場に臨みて適當に處分する事。

りんぎょ 臨御(名) 天皇の其場に臨ませ給ふ事。●出御。

りんぎょふかく 林邑樂(名) 上古に傳來せし外國の音

樂の一種。◎林邑は印度地方の國名なりと

いふ。

りんじ 繪旨(名) 陛下の仰せ。●詔勅。●繪言。

りんじ 臨時(名) 時に臨みての事。●其時々特別な

る事。△(形)―臨時なる。(副)―臨時に。

りんじかく 臨時客(名) りんじのかくに同じ。

りんじょう 林鐘(名) 六月の異名。

りんじよく 音階(名) やぶさかなる事。●しわき事。●

卑音。●けち。△(形)―音階なる。(副)―

音階に。

りんじつ 痲疾(名) 病の名。尿道の腫るゝ病。●痲病。

りんじのかく 臨時客(名) 中古時代。年の始に攝政關

白の家に大臣以下公卿を招き宴を開く事。

◎定式の公務にも非ざるの意にて臨時とい

ふ。

りんじのまつり 臨時の祭(名) (一)臨時に行ふ祭典。

(二)中古より始まりたる官祭の名。加茂明

神にては十一月下の酉の日。石清水八幡に

ては三月中の午の日。◎此くの如く後は定

期祭になりたれども其始は臨時に行はれた

る故に此名あり。

りんじさく 臨時祭(名) 臨時の祭に同じ。

りんじゅう 臨終(名) 將に死せんとする時。●末期。●

今は。

りんびやヒョウ

痲病(名) 病の名。||痲疾に同じ。

りんまほう

厘毛(名) 一厘一毛の如き些細なる事。

りんせい

稟性(名) 天稟の性質。●天性。●天資。

りんせつ

輪説(名) 雅樂の手の名。……弾き方にも吹き方にもあり。

りんせん

林泉(名) 木あり池ある庭園。

りんぜん

凜然(副) 威嚴の人を射る有様。●身にしみわたる有様。●寒氣の身を刺す有様。●ぞつこするほど。△(又)―凜然さ。(形)―凜然たる。

りんせき

臨席(名) 席に臨む事。●出席。△(動)―臨席す。

りんず

綸子(名) 綾子の唐音リンスより出でたる詞。◎綾織物の一種。

りん

利運(名) 都合好き運命。●好運。●幸福。

りく

陸(名) 海川ならぬ土地。●くが。

りく

六(數) むつ。||ろくに同じ。

りくろ

陸路(名) 海路ならぬ陸地の路。●くがち。

りくたう

六韜(名) 支那にて太公望の撰定せし六種の兵法。文韜、武韜、龍韜、虎韜、豹韜、犬韜。

りちち

陸地(名) 陸に同じ。●くが。●をが。

りくちやう

六朝(名) 支那にて建康(今の南京)の地に都せし六代を云ふ。すなはち吳、東晉、宋、齊、梁、陳。

りくりく

戮力(名) 力を合はす事。●協力。△(動)―戮力す。

りくわ

梨花(名) なしの花。○謡曲―梨花一枝雨を帯びたる粧のし。

りくわ

理科(名) 理學に同じ。

りくわ

理會(名) 道理を會得する事。●合點。△(動)―理會す。

りくわ

理外(名) 道理以外の事。○「理外の理」

りくわ

理化學(名) 物理學と化學と。

りくわ

陸續(副) 引續きて。●續々さ。

りくわ

理窟(名) 道理。●條理。●道理を述べ立つる事。

りくわ

陸軍(名) 陸の兵備。

りくわ

六軍(名) 天子の軍勢。

りくわ

陸軍省(名) 陸軍の事務を處理する役所。

りくわ

六麻(名) 詩學上韻字の一つ。……ぬんの處を

りくわ

りくわ

りくわ

りくわ

りくわ

りくわ

見よ。

りくけい

六經(名) 支那にて經書の主たるもの。詩經、書經、禮記、樂記、易經、春秋の六種。

りくげい

六藝(名) 支那にて禮、樂、射、御、書、數の六つの藝術。

りくげつ

六月(名) 詩學上韻字の一つ。……ぬんの處を見よ。

りくご

六語(名) 詩學上韻字の一つ。……ぬんの處を見よ。

りくつかう

陸行(名) 陸を行く事。●陸路の旅行。△(動)―陸行す。

りくがふ

六合(名) 上、下、東、西、南、北の六方。●天地間。●天下。

りくごくし

六國史(名) 六種の國史。……ろくごくしを見よ。

りくでん

陸田(名) 畑。

りくあげ

陸揚(名) 船の積荷を陸に揚ぐる事。

りくぎ

六魚(名) 詩學上韻字の一つ。……ぬんの處を見よ。

りくしん

六親(名) 最近の親族。〔一〕父、母、夫、婦、兄、弟。〔二〕父、母、兄、弟、妻、子。〔三〕父、子、兄、弟、夫、婦。

弟、夫、婦。

りやらめく

(自動四段) 玉などの觸れ合ひて、りやらりやらと鳴る。○中務日記「玉佩の音、や道にりやらめきて」

りやう

利益(名) 〔一〕神佛の靈驗。●利生。〔二〕利益に同じ。●利得。●便利。

りく

略(名) 〔一〕はぶく事。●省略。●節略。○要略。〔二〕はかりごと。●策略。●謀略。●兵略。〔三〕三略の略。支那兵書の名。

りくばう

略賣(名) 略奪して賣る事。●ひごばかし。△(動)―略賣す。

りやくぶん

略文(名) 簡略に書きたる文章。

りやくふく

略服(名) 略式の衣服。

りやくご

略語(名) 一音もしくは數音を省略して用ふる言語。●略言。

りやくぎ

略儀(名) 省略したる儀式。●略式。

りやくしき

略字(名) 書を省略したる文字。

りやくしき

略式(名) 省略したる儀式。●略儀。

りやくしき

略筆(名) 〔一〕或文句を省略して書く事。〔二〕全文を簡略に書く事。

りくす

(他動サ變) 〔一〕はぶく。●省略する。〔二〕奪

ひ取る。

りけん

利劍(名) 「一」鋭利なる劍。「二」阿彌陀の迷心を断たしむる力の鋭さを利劍にたとへて云ふ。

りげん

俚言(名) 田舎の言語。●俚語。●鄙語。●世俗の言語。

りげん

俚諺(名) 田舎の諺。●世俗の諺。

りぶん

利分(名) 「一」利益たる分。●得分。●まうけ分。「二」利息としての分。●利子。

りふじん

理不盡(名) 理非に拘はらぬ事。●無理無駄。△(形)―理不盡なる。(副)―理不盡に。

りこ

利己(名) 己の利をのみ謀る事。●身勝手。

りこん

離婚(名) 離縁に同じ。△(動)―離婚す。

りか

履行(名) 實際に履み行ふ事。●實行。△(動)―履行す。

りこう

利口(名) 利發。●敏捷。●伶俐。△(形)―利口なる。(副)―利口に。

りが

離合(名) 「一」離るゝと合ふこと。「二」文章批評上の詞。文脈の離れたり合ふたりする事。

りこうもの

利口者(名) 利發なる人。●伶俐なる人。(俗)

りえん

梨園(名) 俳優。●役者。○梨園は支那にて唐の朝に俳優をかゝへおきたる處なれば云ふ

りえん

離縁(名) 夫婦、養子女などの縁を断つ事。●離婚。△(動)―離縁す。

りえんじ

離縁状(名) 離婚する妻に與ふる夫よりの證明書。●去り狀。

りえき

利益(名) 得分。●利得。●まうけ。●利。

りてい

里程(名) 道の遠さ。●道のり。

りあひ

理合(名) 條理。●譯柄。

りあけ

利上(名) 借金の利息だけを拂ふ事。

りざい

理財(名) 「一」財用を整理する事。●經濟。「二」理財學の略。

りざいがく

理財學(名) 國家の財政を研究する學科の名。●經濟學。

りさん

離散(名) 離れくゝになる事。△(動)―離散す。

りき

利器(名) 最長の道具。●切れ味の善き刃物。

りき

力(名) ちから。

りき

離居(名) 離れて住居する事。●別居。△(動)―離居す。

りきり

力量(名) 方の分量。

りきん

利金(名) 利息としての金。●利息。●利子。

りきむ

(自動四段) 力のある風をする。●威張る。(俗)

りききう

離宮(名) 天皇の御別荘。●行在所。●こつみや。

りききゅう

利久(名) 英語リキニールの訛。●洋酒の名。

りきし

力士(名) 「一」力量ある人。●勇士。「二」相撲取。

りきじん

力神(名) 天手力あまのぢからぢのみこと雄命の異名。天照天神を岩戸より引き出だし奉りたる神。(謠曲)

りきしや

力者(名) 手足の力を以て役を勤むる者。●駕籠昇の類。

りいゆう

理由(名) 譯柄。●因縁。●筋道。

りりゅう

龍(名) りりゅうに同じ。(雅)

りりゅう

流(名) 「一」血筋。●血統。「二」藝術の流派。●流儀。「三」流罪。

りりゅう

旒(名) 細長き旗を數ふるに云ふ詞。○「白旗數旒」

りりゅうふ

粒(名) つぶ。

りりゅうこん

留飲(名) 「一」病の名。飲食の消化せずして胃中に酸敗し時々苦き水の咽より出づる病。「二」留飲の起りたる時咽より出づる液

りりゅうは

流派(名) 「一」血統の分れ。「二」藝術の分派。●流儀の分れ。

りりゅうにょ

龍女(名) 「一」娑竭龍王の女。……佛法の功力にて男子と生れ變り成佛せしさいふ故事。……變成男子を見よ。「二」龍宮城の姫君。●乙姫。「三」すて龍神の女。

りりゅうにへんじや

龍女變成(名) 佛法の功力により八歳の龍女が男子に生れ變りしを云ふ(へんじやうなんし)變成男子を見よ。

りりゅうふばう

立坊(名) 皇太子に立ち給ふ事。●立太子。

りりゅうへい

流弊(名) 前々よりの弊習。●宿弊。●惡習。

りりゅうづい

留別(名) 「一」旅立つ時あまに留まる人に別辞を述べ又は變應する事。「二」留別の印として品物を受くみ事。●置土産。

りりゅうとう

龍燈(名) 海中の燐火の相連なりて燈火の如く見ゆるもの。世俗龍宮城に龍神の棒ぐる燈なりさいふ。

りりゅうだう

龍膽(名) 草の名。|| りんだうに同じ。(順集)

りゅうどうたい

流動體(名) 物理學上三體の一つ。之

を分けては容易く分れ之を接すれば再び一體と爲りて流動を作るもの。……水。油の類。●流體。●液體。●流動物。

りゅうどうすゐ

龍吐水(名) 水を彈き出す機械。噴筒げんぱうなかりし時代には消防に用ひしもの。

りゅうどうちやん

流暢(名) 少しも滯滞せぬ事。△(形) 一流暢なる。(副) 一流暢に。

りゅうり

流離(名) 流浪。△(動) 流離す。嘸曉(副) 朗なる聲。●笛などの音。(又) 嘸曉と。(形) 嘸曉たる。

りゅうり

(副) 鎗、長刀など打振る音。(又) ーりう

りゅうり

龍王(名) 龍神に同じ。

りゅうわちう

龍駕(名) 天皇の御乗物。

りゅうが

龍顏(名) 天皇の御顔。

りゅうがん

龍眼肉(名) 藥品の名。熱帶産喬木の實。

りゅうふりかく

立樂(名) 雅樂に云ふ詞。立ちて音樂を奏する事。●たちかく。

りゅうがく

留學(名) 外國に滯留して學問する事。●

りゅうよう

遊學。△(動) 留學す。流用(名) 甲のものを乙のものに融通して用ふる事。△(動) 流用す。

りゅうたい

流體(名) 流動體。●液體。

りゅうたづし

隆達節(名) 小唄の一種。泉州堺の僧隆達の初めたるもの。

りゅうたん

龍膽(名) 草の名。りんだうに同じ。(和泉式部集)

りゅうれい

流例(名) 前々よりの例。●舊例。●慣例。

りゅうれん

流連(名) ぶんながしに遊ぶ事。……遊廓などにて。

りゅうざう

立像(名) 立ちたる姿の像。流俗(名) 世間風。●世俗。

りゅうづ

龍頭(名) 〔一〕龍の頭。〔二〕鐘の上部。釣手に龍頭を附けたる處。〔三〕龍頭卷の略。

りゅうつう

流通(名) 流れ通る事。●滯滞せぬ事。●融通。●通用。△(動) 流通す。

りゅうづま

龍頭卷(名) 懷中時計の一種。把手にてぜんまいを巻くやうに爲りたるもの。

りゅううん

隆運(名) 隆盛なる運命。

りゅうなん

龍腦(名) 藥品の名。樟腦を精製したる



もの。

龍鬚(名) 草の名。麥門冬の異名。

りゅうくわく 硫化(名) 化學上の詞。硫黄と化合する事。

△(動)―硫化す。

りゅうふくぐらん 立願(名) 神佛に祈願を立つる事。△

(動)―立願す。

りゅうくわくまん 柳花苑(名) 雅樂の曲名。

りゅうくわく 龍宮(名) 海中にある龍王の御殿。●海神の宮殿。

りゅうくわく 流宮(名) 流浪して他處に寄寓する事。△

(動)―流寓す。

りゅうくわくじやじゅう 龍宮城(名) 龍宮に同じ。

りゅうまぢす 僕麻質斯(名) 英語レウマチズムの訛。

◎病の名。關節の痛むもの。●風毒。●風疾。●瘡風。●傷冷毒。

りゅうげん 流言(名) 誰言ふと無く言ひ廻らす無根の言葉。

△(動)―流言す。

りゅうげのさんま 龍華三會(名) 彌勒佛出世の日。龍華樹下に坐して三會の説法を爲す事。其第一會には九十六俱胝の聲聞衆を度し。第二會には九十四俱胝の聲聞衆を度し。第三會

には九十二俱胝の聲聞衆を度するさいふもの。故に「龍華の三會に遇ふ」とは彌勒の出世に遇ふの意。……みるくを見よ。

りゅう 輪鼓(名) 紋の名。◎鼓の胴の形さいふ意。(圖)

りゅう 龍骨(名) 船材の名。船底に用ふる長き材木。

りゅうくわくぼく 龍骨木(名) 草の名。霸天樹の一種。

りゅうかう 流行(名) 世間一般に行はるゝ事。●はやり。△(動)―流行す。

りゅうかう 流行病(名) 木の名。林檎の古稱。(和名抄)

りゅうかうびやく 流行病(名) 流行する病。

りゅうかう 時疫(名) ●はやりやまひ。

りゅうこうし 龍骨車(名)



龍吐水に同じ。龍の骨の如き形ちしたる車仕掛の器械。田に水を漑ぎかくる時用ふるもの。(圖)

柳營(名) 「一」將軍の陣營を云ふ。●幕府。

◎漢の將軍周亞父が細柳の地に營を構へしより出でたる詞。「二」轉じて將軍の居所を云ふ。

立纓(名) 天皇着御の冠の纓。上を向きて立ちたる故に云ふ。

流涕(名) 涙を流す事。△(動)―流涕す。

隆替(名) 盛なるを衰ふる事。●興廢。

硫醜(名) 藥品の名。硫黃、醜素、水素の化合したるもの。

流産(名) 臨月以前に出産す事。△(動)―流産す。

龍葵(名) 草の名。||小茄こなすびに同じ。

流儀(名) 藝術の流派。●其流獨得の長所。

龍吟(名) 古代の琴の名。

琉球芋(名) 薩摩芋の一名。◎もさ

琉球より薩摩に傳へ。それより諸國に傳はりたる故に云ふ。

琉球表(名) 琉球より産する豊表

蘭を以て織りたるもの。

琉球袖(名) 琉球より産する袖。

龍馬(名) 一日に千里を走るを龍さいふ。◎

良馬。●駿馬。

流民(名) 流浪する人民。

流矢(名) ながれや。

柳絮(名) 柳の花にある綿の如きもの。

龍神(名) 海神。●雨を司る神。●龍王。

臨時祭(名) りんじのまつりに同じ。(實方集)

隆準(名) 鼻筋の通りて高き事。

柳眉(名) 柳の葉の如き眉。美人の眉をいふ。

龍鬢(名) 花莖の一種。細き蘭を染めて種々の模様を織り出したるもの。

龍門(名) 「一」鯉の漉登りの模様。「二」古

代の琴の名。

龍紋(名) 綾文の轉。白地の綾の織物。

流星(名) 天の一方より一方に飛び移る星

●落星。●夜還星。

隆盛(名) 盛なる事。△(形)―隆盛なる。

隆盛(名) 盛なる事。△(形)―隆盛なる。

隆盛(名) 盛なる事。△(形)―隆盛なる。

△(副)―隆盛に。

りりゅうせんかこう

龍涎香(名) 香料の名。抹香鯨の腦

中より得るもの。

りりゅうすゐ

流水(名) 流るゝ水。

りしゅん

立春(名) けつしゅんの略。○謡曲「初めはりしゅんの題なれば花も盡きぬと引き開く」

りじゆん

利潤(名) 利益。●利得。●純益。

りひ

理非(名) 道理と非理と。

りびやびやう

痢病(名) 病の名。下痢の劇しきもの。

りもつ

利物(名) 神佛の恩徳もて萬物に利益を興ふる事。○謡曲「此神は垂跡年久しさいへども利物の風あらたなり」

利物の風あらたなり

りせい

里正(名) 村の長。●庄屋。●名主。●村長。

りす

栗鼠(名) きねずま 木鼠に同じ。

りす

利子(名) りしに同じ。

りすゐ

利水(名) 水を善く流るゝやうにする事。●治水。

水。

りまう

里數(名) 里を以て數ふる數。●道のり。

